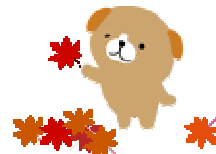




北海道・東北、北信越 九州3地区合同企画



体育・保健体育ネットワーク研究会

広島県開催 <もみじまんじゅうラウンド> H27.11.13(Fri) YMCA 国際文化センター

第54回全国学校体育研究大会広島大会終了後、全国各地の先生方、24名に参加していただき「広島もみじまんじゅうラウンド」を開催することができました。全国学体研1日目のシンポジウムの報告や2日目の各分科会のシェアで大変盛り上がりしました。

1 シンポジウム「発達の段階を踏まえて育成すべき資質・能力について」報告

大友 智 教授（立命館大学）& 佐藤 豊 教授（鹿屋体育大学）

文部科学省に設置された「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会」において、これまで議論が重ねられ、論点整理として取りまとめられた内容や中教審の動向について解説していただきました。



今後、学習指導要領の構造を「児童生徒に育成すべき資質・能力」を明確にした上で、各教科等でどのような教育目標・内容を扱うべきか、また、資質・能力の育成の状況を適切に把握し、指導の改善を図るための学習評価はどうあるべきか、といった視点から見直すことが必要であるとのことでした。また、諸外国の資質・能力論の分析や、国立教育政策研究所で検討されている「21世紀型能力」の枠組み試案などを参考としながら、学習指導要領の構造として重視すべきポイントについて、さらに議論が重ねられるということでした。文科省動画チャンネルでの文科省教育課程課 大杉企画室長の動画を紹介していただき、学習指導要領の改訂が着々と進んでいることが理解できました。

2 幼・小・中・高・特支各分科会のシェア



幼稚園の分科会では、広島市内の幼稚園で組織的に取り組んでいる「体力向上プロジェクト」の取組により、児童がのびのびと運動や遊びに取り組んでいる姿がとても印象的であったこと、また、運動する環境づくりが重要であることを再認識したという内容が協議の中で出されたという報告がありました。

小学校の分科会では、学びの姿のゴールイメージをどこにもっていくのかを明確にすることが重要であること、言語活動がテーマで協議が進められた第5分科会においては、指導助言者の日野先生より、「教師の指導は、『～できるようにする』ことだが、『～したい。』と児童に思わせる指導も重要。」と、意欲や態度を育てていくことも重要であるという話があったこと、技能には差が出て

くるが、態度や思考・判断の差を少なくしたいという話題が出されたという報告がありました。

中学校の第8分科会では、あえて態度や思考・判断の形成に着目した授業展開がされていました。生徒に考えさせながら進めていく授業展開、チームの中でかわり合いながら協力することを学ばせる新たな方法が参考になったということでした。評価の見取りにおいては、ABCの設定はするものの1回で見取ることは難しく、総括的評価として単元の評価をする、また、思考・判断の評価では指導期間と評価時期だけでは見取ることは難しいので、単元を通して見取ることも必要ではないかといったことが協議されたという報告がありました。

高等学校では、第11分科会のグローバルな人材の育成のために、学校の特色である武道「弓道」の実践がされていたことが大変興味深かったという報告がありました。

3 北海道・東北、北信越、九州での取組

北海道・東北を代表して清水先生、北信越を代表して長谷川先生、九州を代表して福井先生より、各地区での取組を紹介していただきました。東北や北信越では研究会が立ち上がった県も多く、このネットワーク研究会が「チームJAPAN」になり、さらに授業づくりを充実していくこと、そして保健体育教師のスキルアップをしなければならないということを改めて感じました。3人の先生には、会の受付、そして運営まで行っていただき、感謝しております。ありがとうございました。

第54回全国学校体育研究大会広島大会には、多くの方に御参加いただき、ありがとうございました。また、もみじまんじゅうラウンドでは、大会後ということもあり、かけつけてくださった先生方のおかげで、なんとか開催することができました。みなさん、助けてくださり、本当にありがとうございました！

【報告：清田】

